令和６年度　サッカーキャンプ 誘致戦略推進事業

実施報告書
（概要版）

沖縄県

令和 6 年度　サッカーキャンプ 誘致戦略推進事業
実施報告書

目次

１．概要–誘致活動について

２．決定状況

３．沖縄ニューイヤーカップ 2025 の開催

４．キャンプ地の情報発信について

５．総括

１．概要-誘致活動について

沖縄県におけるサッカーキャンプ誘致事業は本年度で 16 年目を迎えた。
本事業は、平成 22 年度にわずか 7 チームからスタートしたが、各自治体や宿泊施設、関係団体との密接な連携を進めることで、受け入れ体制を整備。さらに、「芝人養成事業」を通じた芝の品質向上や、「受入市町村促進事業」によるキャンプ地の拡大といった取り組みが功を奏し、平成 30 年度には実施クラブ数が 28 まで増加。その後も継続的な誘致に成功し、安定した運営を続けている。

また、近年は来場促進を目的とした「サッカーキャンプガイドブック」の発行や、公式ホームページの多言語対応など、情報発信の強化にも力を入れ、サッカーキャンプを通じた沖縄ブランドの価値向上を推進している。

今年度からは事務局が FC 琉球を代表企業とする共同企業体に変わり、初めてのサッカーキャンプとなった。
Ｊリーグとの強固なネットワークを活かし、スムーズなクラブ誘致を実現。さらに、ガイドブックの発行時期を前倒しすることで、昨年よりも情報の周知を強化し、来場促進に努めた。

一方で、2026-27 シーズンからのＪリーグのシーズン移行（秋冬制）に向け、参加クラブの減少が懸念されている。そのため、自治体やホテルとの関係性をより一層強化し、外的要因に左右されないサッカーキャンプの実現を目指す必要がある。

また、Ｊリーグ開幕の前倒しの影響により、誘致クラブ数は昨年より 1 チーム減少。しかし、その空いた枠に女子リーグのチームを誘致することに成功し、女子リーグの参加クラブ数は増加した。

今後も自治体、クラブ、ホテルとの連携を深め、シーズン移行を見据えた持続可能なサッカーキャンプの運営を進めていく。

１）　前年度（令和５年度）実施クラブ（国内）の継続誘致について

19 クラブ（J クラブ 17、女子 2 クラブ）の継続実施の確定

*昨年度から継続的にキャンプを実施したクラブ一覧。

【国内クラブ】19 クラブ（J17 クラブ＋女子 2 クラブ）		
FC 東京	J1	国頭村
川崎フロンターレ	J1	恩納村
浦和レッズ	J1	金武町
北海道コンサドーレ札幌	J1	金武町
サガン鳥栖	J1	読谷村
ガンバ大阪	J1	中城村
京都サンガ F.C.	J1	八重瀬町
ヴィセル神戸	J1	西原町
名古屋グランパス	J1	南風原町
FC 町田ゼルビア	J1	名護市・うるま市
東京ヴェルディ	J1	八重瀬町・中城村
V・ファーレン長崎	J2	読谷村
栃木 SC	J2	名護市・うるま市
ジェフユナイテッド市原・千葉	J2	南城市
水戸ホーリーホック	J2	豊見城市
ベガルタ仙台	J2	糸満市
大宮アルディージャ	J3	沖縄市
浦和レッズレディース	WE	金武町
アルビレックス新潟レディース	WE	南城市

昨年度キャンプを実施したクラブのうち、ザスパ群馬、アルビレックス新潟、大宮アルディージャ VENTUS の 3 クラブを除くすべてのクラブが、今年度も沖縄でのキャンプを継続して実施。

今年度は J リーグの開幕が 1 週間早まったことにより、スケジュールの調整が難しくなったため、上記 3 クラブは沖縄でのキャンプを断念せざるを得なかった。

一方で、今年も沖縄を訪れたクラブについては、すべて昨年と同じ受け入れ自治体でキャンプを実施。これにより、各クラブのキャンプ地としての定着がさらに進み、大きな前進となった。

２）　その他Ｊクラブ　新規＆過去沖縄キャンプ実施クラブの復活誘致

Ｊリーグ開幕が早まったことによりスケジュールが昨年と変更を余儀なくされ撤退するクラブが出ると同時に、今年から沖縄へキャンプが復活したクラブなどもいた。

■ヴァンラーレ八戸

4 年ぶりに沖縄でのサッカーキャンプが実現した。

昨年はスタジアムの芝のコンディションが整わず、クラブの受け入れが難しい状況だったが、トレーニングマッチを目的としたことでのキャンプ実施ということもあり、本部町でのキャンプ受入が再開した。

■FC ふじざくら山梨

昨年はＪクラブとのスケジュールが重なり、沖縄キャンプの実施を見送ることとなった FC ふじざくらだったが、今年は沖縄でのキャンプが復活。

キャンプ期間中には、沖縄の女子チームとのトレーニングマッチを実施し、実戦を重視した強化を図った。また、同時期に沖縄でキャンプを行っていた他の女子チームとも合同でトレーニングを行う機会があり、互いに刺激を受けながら充実した時間を過ごすことができた。

本部町は、ヴァンラーレ八戸が沖縄キャンプを実施していない期間も、市をあげて八戸との交流を継続。物産展の開催などを通じて関係性を深める取り組みを行ってきた。

このように、キャンプ期間外でもクラブとのつながりを維持し続ける努力は、今後のシーズン移行に伴う課題解決の重要な手段の一つとなると考えられる。

継続的な関係構築が、クラブ側のキャンプ地選定における大きな決め手となる可能性もあり、今後は他の自治体でも同様の取り組みを推進し、さらなる誘致の強化を図っていくことが求められる。

一方で沖縄でのサッカーキャンプを検討していたチームの中では様々な事情によりキャンプの実施を断念せざるを得ないクラブも存在した。

アルビレックス新潟、FC 今治、アビスパ福岡、ホンダ FC など数多くのチームからの問い合わせがあったが、昨年受け入れのチームのスケジュール決定が 12 月に入らないと確定しないという背景から断念せざるを得ないクラブが複数クラブあった。

このような機会損失は、今後のシーズン移行にも大きな影響を及ぼす可能性がある。

その対策として来年度は早期のスケジュールの確定、適切な管理と明確な基準を設けることで、より多くのクラブが計画的に参加できる環境を整え、キャンプ地の受け入れ体制の安定化を図ることが求められる。

３）　海外クラブ

Ｊリーグの開幕時期が前倒しされた影響で、キャンプの日程が圧縮され、Ｊクラブとのトレーニングマッチを希望する海外クラブにとってキャンプを実施することが困難な状況となった。その結果、昨年は１チームが参加していた男子海外クラブのキャンプが、今年はゼロとなった。

具体的には、昨年沖縄でキャンプを行った＜蔚山現代 HDFC＞が、より多くのトレーニングマッチを実施したいという理由から、今年のキャンプを断念した。

しかしながら、２月のスケジュールに余裕が生まれたことで、新たに女子海外クラブの誘致が成功し、女子クラブ同士のトレーニングマッチが活発に行われるようになった。これにより、今後のキャンプ誘致における新たな可能性が示唆される。

今後も男子チームに限定せず、女子チームを含めた海外クラブの誘致を積極的に推進していく必要がある。

４）　女子クラブ

Ｊリーグの開幕が早まったことにより、２月の期間中に女子クラブの受け入れ規模が拡大し、今年は国内外合わせて５クラブがキャンプを実施した。さらに、大学を含めると６クラブがキャンプを行い、トレーニングマッチの対戦機会が増加したことで、各クラブの満足度向上につながった。

今年度初めてキャンプを実施した「SEISA OSA レイア湘南 FC」は、石垣島でキャンプを実施した。加えて、沖縄県招待サッカーへの参加も果たし、非常に協力的な姿勢を示した。

今後は、トレーニングマッチ環境のさらなる充実を図り、なでしこリーグ、WE リーグ、海外クラブの誘致拡大につなげていく必要がある。

５）　大学チーム

３月に開催された関東や関西、地元の大学チームを含めたカップ戦の主催者と連携し、１～２月期に実施されるキャンプ終了後の３月のグラウンドの有効活用や宿泊施設への経済効果の創出に努めた。

また、カップ戦以外にも慶應義塾大学では男子チームと女子チームの双方がキャンプを実施したことで合計 100 名以上の受け入れを行い経済効果に貢献した。

一方で、インバウンド需要の影響による宿泊施設価格の高騰が要因となり、例年大会前後にキャンプを実施していた大学チームの参加が減少した。その結果、本年度は慶應義塾大学および神奈川大学の 2 チームのみの参加にとどまった。

このことから、今後は資金力のある大学や、男子・女子の両チームを有する大学に対象を絞り、より効果的な誘致活動を進める必要がある。

２.決定状況

令和６年度　沖縄サッカーキャンプ　実施一覧

１．ＦＣ東京（J1）＜選手・参加人数　約 56 名＞
2025 年 1 月 12 日～1 月 24 日（13 日間）
場所：かいぎんフィールド国頭
宿泊：オクマプライベートビーチ＆リゾート（国頭村）
2025 年 1 月 25 日～2 月 1 日（8 日間）
場所：糸満市西崎陸上競技場

２．川崎フロンターレ（J1）＜選手・参加人数　約 60 名＞
2025 年 1 月 14 日～1 月 28 日（15 日間）
場所：赤間総合運動公園サッカー場

３．浦和レッズ（J1）＜選手・参加人数　約 60 名＞
2025 年 1 月 12 日～2 月 1 日（22 日間）
場所：金武町フットボールセンター

４．ガンバ大阪（J1）＜選手・参加人数　約 48 名＞
2025 年 1 月 17 日～2 月 1 日（16 日間）
場所：吉の浦公園ござまる陸上競技場

５．京都サンガ F.C.　（J1）＜選手・参加人数　約 50 名＞
2025 年 1 月 13 日～1 月 26 日（14 日間）
場所：東風平運動公園サッカー場

６．ヴィッセル神戸（J1）＜選手・参加人数　約 70 名＞
2025 年 1 月 17 日～2 月 1 日（16 日間）
場所：西原町民陸上競技場

７．名古屋グランパス（J1）＜選手・参加人数　約 56 名＞
2025 年 1 月 13 日～1 月 20 日、1 月 22 日～2 月 1 日（19 日間）
場所：黄金森公園陸上競技場

８．FC 町田ゼルビア（J1）＜選手・参加人数　約 71 名＞
2025 年 1 月 12 日～1 月 25 日（14 日間）
場所：21 世紀の森公園サッカー・ラグビー場

９．東京ヴェルディ（J1）＜選手・参加人数　約 52 名＞
2025 年 1 月 13 日～1 月 25 日（13 日間）
場所：八重瀬町スポーツ観光交流施設

2025 年 1 月 26 日～2 月 1 日（7 日間）
場所：21 世紀の森公園サッカー・ラグビー場

１０．北海道コンサドーレ札幌（J2）＜選手・参加人数　約 49 名＞
2025 年 1 月 8 日～1 月 24 日（17 日間）
場所：金武町陸上競技場

１１．サガン鳥栖（J2）＜選手・参加人数　約 48 名＞
2025 年 1 月 14 日～1 月 28 日（15 日間）
場所：ZANPA プレミアム残波岬ボールパーク

１２．ベガルタ仙台（J2）＜選手・参加人数　約 52 名＞
2025 年 1 月 10 日～1 月 19 日（10 日間）
場所：糸満市西崎陸上競技場

１３．水戸ホーリーホック（J2）＜選手・参加人数　約 41 名＞
2025 年 1 月 14 日～1 月 25 日（12 日間）
場所：豊見城総合運動公園陸上競技場

１４．ジェフユナイテッド市原・千葉（J2）＜選手・参加人数　約 52 名＞
2025 年 1 月 13 日～1 月 26 日（14 日間）
場所：南城市陸上競技場

１５．V・ファーレン長崎（J2）＜選手・参加人数　約 54 名＞
2025 年 1 月 17 日～1 月 24 日（8 日間）
場所：読谷村陸上競技場

2025 年 1 月 25 日～2 月 1 日（8 日間）
場所：八重瀬町スポーツ観光交流施設

１６．大宮アルディージャ（J2）＜選手・参加人数　約 50 名＞
2025 年 1 月 19 日～2 月 1 日（14 日間）
場所：タピック県総ひやごんスタジアム

１７．栃木 SC（J3）＜選手・参加人数　約 45 名＞
2025 年 1 月 14 日～1 月 26 日（13 日間）
場所：うるま市具志川多種目球技場

１８．ヴァンラーレ八戸（J3）＜選手・参加人数　約 50 名＞
2025 年 1 月 20 日～2 月 5 日（17 日間）
場所：本部町運動公園陸上競技場

１９．アルビレックス新潟レディース（WE.リーグ）＜選手・参加人数　31 名＞
2025 年 2 月 10 日～2 月 21 日（12 日間）
場所：南城市陸上競技場

２０．三菱重工浦和レッズレディース公式（WE.リーグ）＜選手・参加人数　約 35 名＞
2025 年 2 月 10 日～2 月 17 日（8 日間）
場所：金武町フットボールセンター

２１．FC ふじざくら山梨（なでしこリーグ）＜選手・参加人数　約 25 名＞
2025 年 2 月 14 日～2 月 17 日（4 日間）
場所：ZANPA プレミアム残波岬ボールパーク

２２．ＳＥＩＳＡ ＯＳＡレイア湘南ＦＣ（なでしこリーグ）＜選手・参加人数　約 25 名＞
2025 年 2 月 28 日～3 月 6 日（7 日間）
場所：サッカーパークあかんま

２３．仁川現代製鉄レッドエンジェルズ（韓国女子）＜選手・参加人数　33 名＞
2025 年 2 月 10 日～2 月 26 日（17 日間）
場所：金武町陸上競技場

２４．慶應義塾大学　男子・女子　＜選手・参加人数　約 100 名＞
2025 年 2 月 10 日～2 月 18 日（9 日間）
場所：沖縄県総合運動公園 蹴球場　他

２５．神奈川大学　＜選手・参加人数　約 100 名＞
2025 年 2 月 10 日～2 月 18 日（9 日間）
場所：うるま市具志川多種目球技場